

対象	中学校以上
教科	キャリア教育
該当 単元	「中学生の ハローワーク」 ・ 新聞記者の仕事 (裁判取材)
教科書	
掲載日	2019. 1. 28. 朝刊 広域滋賀版

# 新聞記者の仕事 **教えます**



## 裁判取材



「被告人は、日常的に暴力を受けていた」。弁護人が訴える横で、被告人のしゃくり上げる声が聞こえる。刑事裁判の取材は、人間のもったももない感情に触れる場だ。重大事件の裁判では、記者は毎日、朝から夕方まで傍聴する。

法廷には、痛烈な悲しみや苦しみを負い、「許すことはできない」と話す被害者や家族がいる。一方で、身の潔白を必死で訴える被告や、おえつを漏らして謝る被告、自身の境遇や過去をさらけ出される被告を見た。

傍聴席の記者は、そうした強い感情や、これまで自分には想像できなかった世界を見る。時に圧倒されそうにな

## 責任の重さ感じ執筆

る。しかし、公平な視点で冷静に事実を伝えなければならぬ。

被告はあくまで被告で、「犯人」ではない。検察や弁護人の主張も、判決でさえも、全てが真実だとは限らない。法律の解釈は、専門家さえ悩む。「これが正解」と記者が断定できるものではない。日ごろの取材と違い、法廷では記者が質問することはできない。もどかしく、難しい。

それでも、人の一生を左右する決定がなされるのが裁判だ。被告はどんな様子で、どのように審理が行われ、認定された事実は何か、どんな証拠が出て、判決はどれを重視したのか、歴史にとどめなければ。

裁判員経験者への取材で「人を裁く責任が持てるか不安だ」と聞いた。それを報じる責任の重さを感じ、裁判では取材も執筆も、普段より一層時間をかけている。

(岡屋京佑)

おかや・きょうすけ 2018年入社。26歳。昨年8月、大津支局に赴任し、警察や司法を担当。趣味は飲み屋巡り。横浜市の出身で、長浜の方に「同じ浜っ子ですね」と声をかけたところ、「全然同じじゃないけどな」と叱られ(？)ました。

問1：記事の冒頭に「(被告人の)しゃくり上げる声」という記述があります。それと

同じ意味で使われている別の単語は何でしょう。

--	--	--

問2：この記事を書いた記者さんが傍聴席にいて心がけていることはどんなこと  
でしょう。

( )伝えること

問3：新聞記者の仕事として、裁判取材が日常の取材と違うのはどんなこと  
でしょう。

( )こと

発展：記事に出てくる言葉の意味を調べましょう。

①峻烈( )

②潔白( )

## 【活用にあたって】

今回は新聞記者の仕事の中でも、裁判についての知識がないと難しいことから、中学生以上を対象にさせていただきました。

職業体験談を聞く講師を招く際に児童や生徒に希望を聞くと、自分では想像ができない仕事内容の職業がいいと答えたという話を聞いたことがあります。確かに小学校3年から消防署や商業店舗へ見学に行きますし、日常目にすることの多い仕事については招いて学ぶメリットが少ないと子どもたちなりに考えるのでしょうか。

新聞記者の仕事の中でも、普段の生活にはあまり登場することのない職業場面ですから、有意義な学習になるでしょう。今回の記事は裁判員になる可能性がある大人にとっても参考になる記事です。是非活用していただきたいです。

### 解答例

問1：おえつ

問2：公平な視点で冷静に事実を

問3：法廷では記者が質問することができない

発展：①(態度や行為が)非常に厳しく激しいこと

②心や行いが正しくて、うしろ暗い所がないこと

(けがれていないこと、という意味もある)